



# 光寿無量

年頭にあたり  
御挨拶を申し上げます  
今年もお念仏とともに  
一日いちにちを  
大切に過ごしましょう

法話  
人生を  
根底から支える心

龍谷大学講師小池秀章師

弥陀の本願には、  
老少・善悪のひとを  
えらばれず

他人を誂く私

『歎異抄』

『歎異抄』第一条にある、「弥陀の本願には、老少・善思のひとを選ばれず(すべての人を必ず救うという弥陀仏の本願は、老人も若者も、善人も悪人も、分け隔てしません)」というお言葉は、私の好きな(心に響く)言葉の一つです。

多くの宗教が「善人は救われ、悪人は救われぬ」という裁きの宗教であるのに対し、浄土真宗は「善人も悪人も平等に救われる」という慈悲の宗教です。

「善人も悪人も平等に救われる」と言うと、「あんな悪い人も救われるんですか」と言う人が必ずいます。『あんな悪い人』とは一

体誰のことでしょう。自分のことを「あんな悪い人」と言っている人は、まづいい人だ」と胸を張って言う。悪い事もしてしまふのが人間なのです。ただし、悪い事ばかりしているわけでもありません。いい事をすこともあるでしょう。いい事も悪い事も、さまざまなくとをしながら生きていくのが私たちなのです。

全人的な救い

自分は本当に「いい人」でしょうか。おそらく、「私はいいい人だ」と胸を張って言う人は、いないでしょう。悪い事もしてしまふのが人間なのです。ただし、悪い事ばかりしているわけでもありません。いい事をすこともあるでしょう。いい事も悪い事も、さまざまなくとをしながら生きていくのが私たちなのです。

ある方から、「弥陀の本願には、老少・善悪の人をえらばれず」というお言葉は、『阿弥陀さまの救いは、老人も若者も、善人も悪人も分け隔てしません』と、救いの普遍性を表すと同時に、「私が、若い時も老いた時も、いい事をさせてもらっている時も、悪い事をし

てしまった時、どんな時も見捨てることはありません」と、私自身の全人的な救いを表しているお言葉として受け止めることが大切でしょうね」と教えていただきました。

私がどのような状況にあらうとも、見捨てず見守っていてくださる阿弥陀さまの大きな心に出会った時、安心して、泣いたり笑ったり、苦しんだり楽しんだりすることのできる人生が恵まれるのです。

私の人生を根底から支えてくださる阿弥陀さまの大きな心に、出遇わせていただきましょう。

(本願寺新報 3254号より)



折り紙 椿 坊守 作

## 住職より

昨年(令和元年)還暦を迎えました。60年前の還暦は、本当におじいさんでしたが、自分のことを考えるとなんだか頼りなくて、どう振る舞えばよいのか判らなくなりますが、発展途上の還暦と思うようにしたいとおもいます。

とはいえ、膝痛は治らず、報恩講の時に参拝の方々には報告したのですが、夏に前立腺の癌が発見され、現在治療中です。癌はほんの初期で、他への転移は認められず、あまり心配はしていません。きちんと治療して長生きしようと考えています。ただ、次世代へ寺を託す準備だけはしっかりと進めていきたいと思っておりますので、どうかお力をお貸し下さい。

今年も宜しくお願い致します

### 前住職の鉄道写真

前号に掲載しました鉄道写真は、「教誓寺だより」が皆様のお手元に届いてほんの数日で、御門徒様から

答えを教えて頂く事が出来ました。

この写真は、「奥中山の三重連」といって、当時の鉄道写真愛好家のなかでは有名なものだそうです。

東北本線の御堂駅と奥中山駅間(現二重いわて銀河鉄道の御堂駅と奥中山高原駅)の三重連運行で、時期は昭和43(1968)年10月の完全電化の直前と考えられるとのことでした。

並木様ありがとうございます。

## 教誓寺一年の行事

今年一年の教誓寺の行事です。元日・春・秋の彼岸会、盂蘭盆会、報恩講にはそれぞれ法要を勤修いたします。皆様お参り下さい。

- 元日 元旦会
- 三月十七〜二十三日 春彼岸
- 三月二十日(春分の日) 彼岸会
- 七月一三〜一六日 お盆
- 七月十二日 盂蘭盆会
- 九月十九〜二五日 秋彼岸
- 九月二二(秋分の日) 彼岸会
- 十月二五日(第4日曜) 報恩講

\*今年の報恩講は今まで通りの10月の第四日曜日です。

## 新年のご参詣

新しい年を迎えたら、お詣りに参りましょう。

元旦会法要  
一月一日

午前七時三〇分より  
お寺は、準備万端整えて、元日から皆様のお参りをお迎え致します。

前坊守もお汁粉を拵えて、皆様に召し上がって頂くのを楽しみにしております。

お子様には、お年玉のお菓子を用意しております。皆様でお参り下さい。

## 年回忌法要

御法事は亡き人を縁として、いま生かされている生命の尊さをおかみしめつつ、故人も我も共にすくつてくださる阿弥陀如来の智慧と慈悲に手を合わせ、その仏恩にご報謝のおつとめとして行います。

## 今年(令和二年)の年回忌

- 一周忌 平成三二(令和元年) 二〇一九年
- 三回忌 平成三十年二〇一八年
- 七回忌 平成二六年二〇一四年
- 十三回忌 平成二〇年二〇〇八年
- 十七回忌 平成十六年二〇〇四年
- 二三回忌 平成十年 一九九八年
- 二七回忌 平成六年 一九九四年
- 三三回忌 昭和六三年 一九八八年
- 三七回忌 昭和五九年 一九八四年
- 五十回忌 昭和四六年 一九七一年
- 七十回忌 昭和二六年 一九五二年
- 百回忌 大正十年 一九二二年

各ご施主様宛に年回忌法要のご案内をしています。すでに繰り上げておつとめされた方にもご案内が届きますことをご容赦下さい。また、内容に誤り等があった場合は、ご遠慮なくご指摘下さい。

ご参詣の日時につきましては、お寺にご相談下さい。

浄土真宗本願寺派 圓生山 教誓寺  
108-0073  
東京都港区三田 一―一十二―一  
〇三(三四五)二三九  
kyousei.ji@is4.so-net.ne.jp